**パラグアイ内政・外交（2014年３月分）**

**概要**

**（１）内政**

●１０日，ベラスケス上院議長（コロラド党）が率いる派閥は，同派閥とカルテス大統領派閥との関係に亀裂が生じている旨明らかにした。

●２６日，ガラベルナ上院議員（コロラド党）は，次期コロラド党党首選に出馬する意向を示した。

●同日，労組団体，農民団体，左派政党等がアスンシオン市を中心に全国規模のデモを実施した。

●２７日，アファラ副大統領は，２６日に実施されたデモを受け，政権閣僚とともに，全国労組団体と対話を開始した。

●２８日，カルテス大統領は，ギジェルモ・ソサ労働雇用社会保障大臣代行を同大臣に任命することを決定した。

**（２）外交**

●６日，ロイサガ外相はワシントンを訪問し，ＯＡＳ事務局において，インスルサＯＡＳ事務局長への表敬を行った。

●同日，ロイサガ外相は，米国国務省において，ウィリアム・バーンズ国務副長官との会談を行った。

●１０～１１日，カルテス大統領はチリを訪問し，１０日，ピニェラ大統領及びバチェレ次期大統領との会談を行うとともに，１１日，バチェレ大統領就任式に出席した。

●２０日，ジェイコブソン米国国務次官補（西半球局担当）が当国を訪問し，同日，カルテス大統領への表敬及びロイサガ外相との会談を行った。

●２４日，オルギン・コロンビア外相が当国を訪問し，同日，カルテス大統領への表敬及びロイサガ外相との会談を行った。

**１　内政**

**（１）労組団体，農民団体等によるデモ**

＜デモの概要＞

●２６日，労組団体，農民団体，左派政党等がアスンシオン市を中心に全国規模のデモを実施した。同デモは，十分な参加者が得られなかったため，大規模なものとはならなかった。また，アルバレンガ国家警察庁長官代理は，デモ終了後，記者団に対し，ランバレ市において，デモ集団が一般車両へ投石し，５名の逮捕者が出る事案が発生したものの，その他，特に負傷者や死者は出なかった旨述べた。なお，同デモにおけるカルテス政権に対しての主な要求は以下のとおり。

-官民連携法（Alianza Publico Privada）の廃止

-法定最低賃金の引き上げ率１０パーセント（３月１日から実施）を２５パーセントに変更

-農地改革

-学生用バス料金の設定

-民間企業による従業員の強制社会保障への加入を遵守させるための内務省の対策強化

＜カルテス大統領の演説＞

●同日夜，カルテス大統領は，大統領府において，今次デモに関する演説を行い，政府が憲法等に則り，平和裏に行われたデモ活動を保証したことを強調した。また，アファラ副大統領が，政府，労組団体，農民団体等との間の対話を設定すると述べた上で，すべてのセクターからの参加を求めるとともに，対話を通じた合意を目指す旨述べた。更に，各種要求をすべて検討することを保証する旨述べた。

＜労組団体，農民団体等との対話＞

●２７日，アファラ副大統領は，デ・バルガス内相，レイテ商工相，ソサ労働雇用社会保障相代行等の閣僚とともに，全国労組団体と対話を開始した。今後，分野別に各セクターと個別協議を実施する予定。

**（２）労働雇用社会保障大臣の任命**

●２８日，カルテス大統領は，ギジェルモ・ソサ労働雇用社会保障大臣代行を同大臣に任命することを決定した。本年１月１日，司法労働省が司法省と労働雇用社会保障省に分割され，アベド司法労働大臣（当時）が司法大臣として留任したものの，労働雇用社会保障大臣の任命は行われていなかった。

**（３）コロラド党の動向**

●１０日，ベラスケス上院議長（コロラド党）が率いる派閥は，カルテス大統領が，次期上院議長候補としてガラベルナ上院議員（コロラド党）を支持する旨明らかにしたことから，同派閥とカルテス大統領派閥との関係に亀裂が生じている旨明らかにした。

●２６日，ガラベルナ上院議員（コロラド党）は，次期コロラド党党首選に出馬する意向を示した。同選挙は現在のところ２０１６年に実施される予定であるが，２０１５年の全国市長選挙に向けたコロラド党内選挙と同時期に前倒しして実施することが検討されている。

**（４）野党の動向**

●２８日，サギエル・リベラル党党首は，記者団に対し，次期上下両院議長選出選挙等を念頭に置き,今後，他の左派勢力と協調行動をとる可能性がある旨発言した。これに対し，ルゴ上院議員（元大統領）は，現時点で左派政党はリベラル党と協調行動を取らなければ,コロラド党政権の長期化を許し,政権奪回が２０２８年まで遅れてしまうとの見解を示した。

**（５）アレギ国家検事総長補の辞任**

●１１日，最高裁判所は，アレギ国家検事総長補（経済犯罪及び汚職対策担当）が提出した辞表を受理した。同検事総長補は，イバニェス下院議員（コロラド党）及びボガード上院議員（コロラド党）等の議員による汚職事件を担当しており，同事件を巡り政治的な圧力を受けていたと見られている。本件について，ディアス国家検事総長は，通常行われる人事異動であるとの見解を示すとともに，アレギ国家検事総長補の後任に自身の従兄弟であるエスピノサ検事を任命した。

**２　外交**

**（１）ロイサガ外相のＯＡＳ訪問**

＜インスルサＯＡＳ事務局長表敬＞

●６日，ワシントンを訪問したロイサガ外相は，ＯＡＳ事務局において，インスルサＯＡＳ事務局長への表敬を行い，６月３～５日に南米サッカー協会本部（Conmebol，ルケ市）において開催予定の第４４回ＯＡＳ総会の準備について意見交換を行った。なお，同表敬後に,パラグアイ政府とＯＡＳ間のＯＡＳ総会開催にかかる取決への署名が行われた。

＜ＯＡＳ常設理事会出席＞

●同日,ロイサガ外相は, ＯＡＳ常設理事会に出席し, パラグアイにおいて開催予定の第４４回ＯＡＳ総会について，説明を行った。同外相は,次回のＯＡＳ総会のスローガンが｢社会的包摂を伴う発展（Desarrollo con inclusion social）｣となる旨述べ,これに対し,米国,カナダ,ブラジル,アルゼンチン,ベネズエラ等のＯＡＳ大使が祝意を述べた。また,同外相は，貧困撲滅，極貧，格差是正，社会的包摂，教育へのアクセス等の分野において，可能な限り早急に具体的な成果を得るための取り組みを再活性化することを提案する旨述べた。更に，各国政府等が貧困対策に取り組んでいるものの，中南米地域の貧困人口は１億６千４百万人であり，そのうち，６千８百万人が極貧状態にある旨強調した。

**（２）ロイサガ外相とバーンズ米国副国務長官との会談**

●６日，ロイサガ外相は，米国国務省において，ウィリアム・バーンズ国務副長官との会談を行った。同外相は，同会談後，記者団に対し，パラグアイにおいて開催される予定のＯＡＳ総会の前に，ビジネスフォーラムを開催する事で合意した旨述べた。また，同外相は，同ビジネスフォーラムの目的について，民間企業が社会的責任の枠組みにおいて，適正な雇用を創出するために，市民社会と相互に交流することを可能にすることにある旨述べた。なお，同外相は，米国国務省において，ロベルタ・ヤコブソン国務次官補（西半球総務）との会談も行い，教育分野を始めとするニ国間関係及びニ国間貿易・投資委員会の再開等につき意見交換を行った。

**（３）モレノ米州開発銀行（ＩＤＢ）総裁との会談**

●７日，ロイサガ外相は，ＩＤＢ本部において，ルイス・アルベルト・モレノ米州開発銀行総裁との会談を行った。同会談においては，ＯＡＳ総会と平行して行われるビジネスフォーラムに対してＩＤＢが行う協力について意見交換が行われた。また，ロイサガ外相は，モレノ総裁に対し，ＯＡＳ総会出席に招待を行った。更に，ＩＤＢが支援を行うパラグアイにおける数々のプロジェクトの進捗状況についても，意見交換が行われた。

**（４）カルテス大統領のチリ訪問**

＜ピニェラ大統領との会談＞

●１０日，バチェレ・チリ大統領就任式出席のためチリを訪問したカルテス大統領は，同日午後，モネダ宮においてピニェラ同国大統領との会談を行った。両大統領は，同会談において，二国間関係につき意見交換を行うとともに，客年９月のカルテス大統領のチリ訪問の際に発出された両国関係の深化に向けた共同声明を歓迎した。

＜バチェレ次期大統領との会談＞

●同日午後，カルテス大統領は，アンドレス・ベジョ外交官学校において，バチェレ・チリ次期大統領との会談を行った。ロイサガ外相は，同会談後，記者団に対し，両国大統領が懸案となっているインフラ，通信，技術協力及び麻薬取引対策に関する両国間取決について意見交換を行った旨述べるとともに，バチェレ・チリ次期大統領の就任により，客年９月の共同声明に則った形で，二国間の対話が進むであろうと述べた。

＜ポルタス・ポルトガル副首相との会談＞

●１１日，カルテス大統領は，バチェレ・チリ大統領就任式出席を前に，シェラトン・ホテルにおいて，ポルタス・ポルトガル副首相との会談を行った。同会談において，シルバ・ポルトガル大統領からカルテス大統領に対するポルトガル公式訪問にかかる招待が伝達された。ポルタス・ポルトガル副首相は，同会談後，記者団に対し，ポルトガルからの輸出だけでなく，両国企業の国際化に向けて，パラグアイがいかに興味深い国であるか確認するために，パラグアイに企業家ミッションを送ることを約束する旨述べた。

**（５）ジェイコブソン国務次官補（西半球局担当）の当国訪問**

●２０日，当国を訪問したジェイコブソン米国国務次官補（西半球局担当）は，同日，カルテス大統領への表敬及びロイサガ外相との会談を行った。

＜ロイサガ外相との会談＞

●２０日，ジェイコブソン国務次官補（西半球局担当）は，ロイサガ外相との会談を行い，政治，経済，貿易等の二国関係について意見交換を行った。同国務次官補は，ロイサガ外相との会談後，記者団に対し，米国が南米における民主主義や報道の自由等の後退の可能性に懸念を抱いていることを認め，改めて，米州民主憲章の価値等にコミットしなければならない旨述べた。また，中南米においては，太平洋同盟の進展やパラグアイを含めた多数の国での高い成長率など状況は良好である一方で，対峙しなければならない問題を多くの国が抱えており，対応が求められている旨述べた。これに対し，ロイサガ外相は，同国務次官補に対し，パラグアイのエネルギー事情や投資環境について説明を行ったとした上で，今後，米国商務省と協働し，パラグアイが提供する投資のチャンスを実際に見てもらうための米国企業家ミッションの当国訪問の可能性につき，意見交換を行った旨述べた。

＜当地米国大使館における記者会見＞

●２０日，公式行事を終えたジェイコブソン国務次官補は，当地米国大使館において記者会見を行った。同記者会見において，同国務次官補は，パラグアイの民主化移行及びパラグアイにおける報道の自由を歓迎した。また，同国務次官補は，米国は，パラグアイに軍事基地を建設する意図はないとして上で，米国が関心を有するのは，ＥＰＰ（パラグアイ人民軍）等の武装組織対策や米国の対パラグアイ投資である旨述べた。更に，中南米地域のいくつかの国々が行っているＯＡＳの信用を低下させようとするキャンペーンについては，ＯＡＳは域内で最も歴史のある地域的機関であり，米州人権システム等の制度を備えるなど，人権保障の面で世界でも重要な機関の一つであるとした上で，ＵＮＡＳＵＲなどの新たな地域統合体はＯＡＳにとって脅威とはならないとの見解を示した。

**（６）オルギン・コロンビア外相の当国訪問**

＜カルテス大統領表敬＞

●２４日，オルギン・コロンビア外相は, カルテス大統領を表敬し,両国が関心を有するテーマについて意見交換を行った。なお，同表敬には，ロイサガ外相，セリ当地コロンビア大使等が同席した。

＜ロイサガ外相との会談＞

●同日，オルギン・コロンビア外相は，外務省において，ロイサガ外相との会談を行い，歴史的な友好関係に基づく両国間の協力における進展を確認するとともに，域内及び世界規模の懸案事項についての意見交換を行った。

＜共同声明等への署名＞

●両外相は，同会談後，在パラグアイ・コロンビア人及び在コロンビア・パラグアイ人への公的サービス向上に関する省庁間協力協定に署名するとともに，共同声明を発出した。同共同声明の主要点は以下のとおり。

-コロンビアのパラグアイに対する治安面での協力を強調。

　-麻薬密輸やマネーロンダリング等の国際組織犯罪に関する両国当局間の緊密な連携を強調。

　-コロンビアにおけるパラグアイ産牛肉の輸入の完全な再開に向け，諸手続を推進。

　-太平洋同盟のオブザーバーとしてのパラグアイの参加及び太平洋同盟との更なる関係強化に向けたパラグアイの関心を強調。

＜両国外相共同記者会見＞

●共同記者会見において，ロイサガ外相は，今次訪問においては，共同声明が発出され，同共同声明が今後の両国政府のロードマップとなる旨述べた。これに対し，オルギン・コロンビア外相は，両国間の協力は双方向で行われており，これまでも，これからもパラグアイに対し治安面での協力を行っていく旨述べるとともに，今後，パラグアイに対し，農業発展や河川開発の面での協力を求める旨述べた。また，オルギン・コロンビア外相は，太平洋同盟は，そのオブザーバー国と貿易，中小企業支援，税関手続きの簡素化等において協働して行くことを希望しており，３０カ国あるオブザーバー国の中でも，パラグアイのように同共同体の統合プロセスによりコミットした国との協働を重視していくであろうと述べた。

**（７）上田大使の信任状捧呈**

●１３日，上田駐パラグアイ日本大使は，大統領府において，カルテス大統領に対し，信任状を捧呈するとともに，同大統領と二国間関係等につき会談を行った。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

**●**１９～２０日，ｼﾞｪｲｺﾌﾞｿﾝ米国国務次官補（西半球局担当）（ﾛｲｻｶﾞ外相との会談等）

●２３～２４日，オルギン・コロンビア外相（ロイサガ外相との会談等）

**（２）往訪**

●２月２８日～３月７日，ﾛｲｻｶﾞ外相，ﾜｼﾝﾄﾝ及びｼﾞｭﾈｰﾌﾞ訪問（OAS総会準備等）

●１１～１２日，カルテス大統領，チリ訪問（バチェレ大統領就任式出席）

●１１～１４日，レイテ商工相，ブラジル訪問（経済関係作業部会出席）

●１２～２２日，バイアルディ女性相，米国訪問（国連女性の地位委員会出席）

●１７～１８日，ロハス蔵相，コロンビア訪問（アンデス開発公社会合出席）

●１７～１８日，アベド司法相，アルゼンチン訪問（司法アクセス関係会合出席）

●２４～２５日，ラフエンテ教育文化相，ブラジル訪問（教育関係国際会議出席）

●２６～３１日，ヒメネス・ガオナ公共事業通信相，ﾌﾞﾗｼﾞﾙ訪問（IDB年次総会等出席）

●２８～３１日，ロハス蔵相，ブラジル訪問（IDB年次総会等出席）